

新宿駅東口地区 賑わい創出・物流効率化の複合型プロジェクト（東京都新宿区）

1. 実験の背景

- 新宿駅東口地区は恒常的に人や車の往来が激しく、歩行者の安全性確保が懸念され、また、歩行者が休憩等に利用できる溜まり空間が少なく、空間的な魅力が低下している。
- 地区内では、路上荷さばきが頻繁に行われ、荷さばき駐車場所を探索するうろつき車両や違法路上駐車、時間超過のパーキングメーター利用が発生しており、歩行者環境を阻害している。
- 当該地区は商業集積地区であるため、物流量の抑制を行うことは難しい。

2. 実験の目的

- 新宿駅東口地区の荷さばきの集約化や路上停車車両の路外駐車場への誘導、パーキングメーター駐車車両への利用時間厳守の声掛けや荷さばき時間の集約化等により、地区内に流入する交通量や路上駐車等を減少させながら、歩行者空間の拡充を行った上で、車道の一部にストリートシーツの設置等を行い、賑わいを創出する。

3. 実験内容

- ①道路空間の活用による賑わい創出実験
 - 沿道店舗や企業等と連携しながら、ストリートシーツを活用し、賑わい創出に資する人を呼び込む仕掛けを導入する(新宿通りの沿道店舗と連携した試飲イベントの実施、ラグビーワールドカップ2019の機運を高めるラグビー関連コンテンツの展示)。
- ②荷さばき集約化プロジェクト
 - 地域内での長時間駐車が顕著な宅配便を対象に荷さばきの集約化を行う。
 - JRバス停跡地にデポを設置し、宅配便配送車両の集約を行い、デポからは各店舗へ人力で配送する。
 - 路上駐車車両の路外駐車場への誘導とパーキング・メーターの適正利用に関する注意喚起の実施、チラシ配布を実施する。
 - 地区内の路上荷さばきを午前中に集約し、午後の時間帯の路上駐車発生を抑制する。



図 実験全体概要

4. 実験結果

①道路空間の活用による賑わい創出実験

- ・ イベントの参加者より、本取組みは賑わいのきっかけになる等の意見があった
- ・ 試飲イベントの実施による既設歩道の歩行者に対する大きな障害行為は発生せず、歩行速度への影響もほとんど見られなかったことから、ストリートシートでのイベント実施は、既設歩道の歩行に影響を及ぼさないことが確認できた。
- ・ アンケート調査の結果、今後地元を主体とした維持管理活動への参加意欲が高いことが確認できた。

②荷さばき集約化プロジェクト

- ・ 実験当日に1414台の路上駐車が確認され、うち約7割(990台)は荷さばき車両が占めていることが確認された。
- ・ 荷さばき集約化実験及び駐車場所・時間の適正化実験の実施により、違法な路上駐車を合計64台削減した。
- ・ 声掛けを実施した時間帯(12~15時)における地区内のパーキング・メーターの利用厳守率が約7%向上した。
- ・ 荷さばき時間集約化導入による支障の有無に対して、約80%は調整により荷さばき時間集約化を適用可能との回答が得られた。

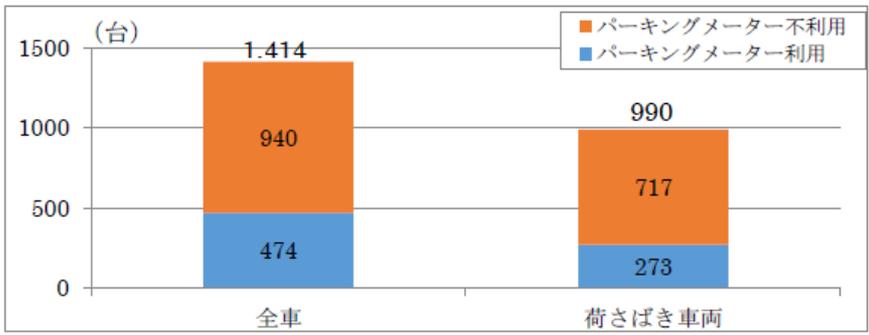


図 荷さばき集約化範囲の路上駐車の発生状況



図 試飲イベント（左）、1次デポ（右）

5. 本格実施に向けた課題

①道路空間の活用による賑わい創出実験

- ・ 持続性のある賑わいメニュー、回遊につなげるコンテンツの検討
- ・ 将来の収益事業、広告事業の展開に向けた体制と仕組みの検討
- ・ 管理運営費用、荷さばき事業費を捻出するための仕組みの検討
- ・ 緊急時の地元対応体制の確保

②荷さばき集約化プロジェクト

- ・ 1次デポの調整、2次デポの確保
- ・ 持続可能なビジネスモデル、スキームの構築
- ・ 地区内関係者との合意形成
- ・ 地区内荷さばきルール適用、周知